



つゝじヶ丘だより東京

つゝじヶ丘同窓会東京支部会報



発行 函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部 会長 新谷 義克
 〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL&FAX 03-5609-9881
 メールアドレス <jimu@td-tokyo.com>
 印刷所 株式会社 サンビプロダクトセンター・題字 細見 紀子(西高14回生)

ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>

会長挨拶

「病気を良き友として」

会長 新谷義克
(西高1回生)



会員の皆様には、お健やかに過ごされることと存じます。

「一病息災」と言う四字熟語は皆さんも良くご存じのことと

思いますが。これは、中年以後においては、特に身体強健で無病の人より何か軽い病気をもって治療している人の方が日頃から健康に気を付けているので結果的には長生きすると云うことであります。病気を良き友として付き合うことが肝心だと言っております。

「友」のことを考えるとき必ずと言って良いほど、徒然草11段を思い出します。そこには悪しき友、良き友の選別が書かれておりますのでご紹介させていただきます。

友とするに悪き者、七つあり。一つに、高く、やんごとなき人(身分が高く高貴な人)。二つには、若き人。三つには、病なく、身強き人。(無病頑健な人は、弱い人への思いやりが足りない)。四つには、酒を

好む人(私には、耳が痛い)。五つには、たけく、勇める兵。六つには、虚言(そらごと)する人(嘘を付く人)。七つには、欲深き人。

よき友、三つあり。一つには、物くるる人。二つには、くす師(私のような医師)。三つには、知恵ある人。と記述してあります。

どうか皆様にはご自身の日常生活や友作りの参考として頂き、「一病息災」で人生80年時代を有意義で悔いのない満足のゆく人生を全うされますよう希望致します。☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

活動報告

つゝじヶ丘同窓会

東京支部便り

事務局長 高橋順吉

(西高17回生)

東京支部の皆様お元気ですか。東京支部の活動と第13回総会のご報告を申し上げます。

序立高女の皆様がお元気なのが東京支部の特徴ですが、その割に活動が活発とは言えなかつた事務局でしたが昨年から事務局員数が大幅に増えました。3年程前から担当内容が徐々に増え、協力者を探していた所でしたので非常に助かって

います。

会報は6号の発行となりますが会報担当に木谷勝子さん(西高13回生)他6名、ホームページに羽川和男さん(西高22回生)他6名の局員を各々配置しました。今後の事務局の活動が期待されます。

若手会員発掘活動の「プロジェクト2010」の一環として、会報を在校生全員に配布してきましたが残念ながら他校に比べて関東への進出新人会員が少なく、作戦を変更して新会員の発掘を行うことになりました。

隔年開催の支部総会・懇親会は昨年5月9日(土)に虎ノ門パストラルホテルにて開催しました。出席者は、258名(会員238名、来賓20名)でした。

西高16回生の川野三郎、峰瞳さんの司会進行により、開会宣言(郷内繁昌副会長)、物故者法要黙禱(小西弥生副会長)、総会及び会計報告(事務局総務担当佐藤雅英)が行なわれました。

引き続き懇親会に入り新谷義克会長の挨拶があり、来賓ご紹介、来賓代表ご挨拶を本部長本間麟太郎様より頂き、適正な時間経過で乾杯となりました。

余興として、千葉浩さん(西高16回生)他2名による演奏と歌唱、前田いおりさん(西高55回生)による情熱的なフラメンコ舞踊があり、阿部正信さん(西高5回生)とユニバースオーケストラによる可憐な

「創立百周年記念誌」を障害者へ

『この坂から』録音版

「この坂から」は、函館西高創立百周年を記念して、平成 19 年に刊行された本で、同窓生を中心に頒布されました。

この本を視聴覚障害者にも利用してもらおうと、函館視聴覚障害者図書館は図書館利用者からのリクエストを受け、青い鳥朗読奉仕団に本の朗読・録音を依頼、奉仕団員 49 名が半年がかりで製作に取り組み、平成 20 年 4 月に録音版 CD が完成しました。総録音時間 36 時間 40 分に及ぶ大作です。

青い鳥朗読奉仕団は、昭和 41 年創立、故若山八重さん(高女 20 回生)武田セイさん(高女 33 回生)のもと視覚障害者の目となるべく、現在も函館視覚障害者図書館蔵書・函館市他広報・新聞連載小説・新聞コラム等製作発送、対面朗読や視覚障害者の行事への参加協力等様々な活動を続けております。

初代代表若山八重さんは、「この坂から」に甥の若山央さん(西高 17 回生)が書いていますが、卒業後東京芸術大学音楽科臨時教員養成科卒業音楽教師に。姫路高校に在職中の昭和 40 年眼底出血で右目を失明し帰函しました。

病氣療養中「どなたか視力を失った人々のために本を読んで下さいませんか」という新聞記事に心引き

つけられ「もう一方の眼が大丈夫なうちに、何かお役に立ちたいという思いが強かった」と早速参加。活動中 135 タイトル 1300 時間を音訳し、「鉄道弘済会朗読奉仕者全国表彰」「厚生大臣表彰」「日本盲人経営者クラブ愛の翼賞」等受賞されております。平成 18 年 5 月 23 日逝去されました。

録音版 CD は、デジター編集(目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことが出来るように編集)で、利用者はプレクストーク録音再生機で聞く視覚障害者のためのものなので、どなたにでも聞いていただくという出来ませんが、函館視覚障害者図書館の蔵書となっております。全国の点字図書館を通して借用できますので、同窓で視覚障害の方がおりましたらお知らせください。さるようお願い致します。

製作にあたり文中の名前の読み方等、編集委員の清野きみ様(高女 3 回生)には何度も電話やファックスでの問い合わせに、お忙しい中快くご協力いただき感謝いたしております。☆ 上野澄子 記 (西高 14 回生・函館在住)

☆☆☆☆☆☆

同窓会雑感

第 13 回同窓会を終えて

数日來の厚い雲が去った平成 21

年 5 月 9 日は、そろそろ初夏の陽気かなという暑さでした。前日夕方には、二重の虹もかかっていた、祝福という美しきで印象深い日になりました。

もう 13 回目なのです。東京支部の同窓会に参加いたしました。もよりの駅から案内の方がおられ、しばしば方角がおぼつかなくなる昨今、ありがたいお心遣いで虎ノ門・パストラルまでたどり着くことができました。幹事の方々を迎えられる中、会場のあちらこちらで再会の喜びがはじけ、自分もそこに身を置いてみると、波の音でしようか、朝市のざわめき? イカを売る声などの、思いがけなく懐かしい演出が耳に届きました。函館と東京がひとつになったようなプログラムを眺めているうちに同期の友人たちもテーブルに揃い総会が始まりました。

同窓会のことを知ったのは 15 年程前と記憶しております。先輩の方からお電話があり「同期のとりまとめをお願いできないでしょうか。」と丁寧な依頼を受けたときです。我家は夫婦で同期でもあり「ハガキの受け取り位ならば」と全く不十分ではありましたがお手伝いをいたしました。その後、持ち回りで引きついでくれる人や、毎回熱心に誘ってくれる友人にも恵まれました。都合で欠席のことも多いのですが、こうして出席したときは、やはり普段とは違う、都心に出現した函館の空気感にリラククスな思

いがします。

懇親会のアトラクションでは、こんなご活躍をされている方がいらつしやるんだな、と楽しませてくれますし、港おどり、応援歌の斉唱と拍手になると会場もまた一層盛り上がります。そういえば 1 年生の入学後、体育館に集められて「指導」を受けたのでした。その時は大きな音に少し緊張しましたが、今は楽しい思い出です。

たくさんの方々への開催へ向けてのご努力に感謝しつつ、次のお店へと流れて行ったのでした。ありがとうございました。☆

姥久手悦子 記(西高 24 回生)

個人の尊厳を大切に、その人らしさをいつまでも...

八王子	特別養護老人ホーム	偕楽園ホーム
岐阜	特別養護老人ホーム	瀬戸の里
函館	特別養護老人ホーム	戸井湖寿荘
岐阜	特別養護老人ホーム	みずなみ瀬戸の里
岐阜	特別養護老人ホーム	ニツ森ホーム

2008 年、岐阜の「瀬戸の里」が優良民間福祉施設として天皇陛下より表彰されました。

医療法人社団新谷会 **新谷医院** 東京都府中市朝日町 2-30 TEL. 042-361-9419 医学博士 新谷義克 (西高 1 回生)

回生だより

(西高3回生)

3 回生の会は、東京と函館で各々毎年開催しています。東京の会は、一泊旅行又は会食で、いつも 20 人以上参加し、西高時代の思い出を語り、盛り上がりがあります。

私達が入学したときは、共学になつた最初の年で、グラウンドもありませんでしたが、運動部は強く、とくに野球部は後にも先にも甲子園出場したのは私達のときだけで、時の 4 番打者橋本力君も毎回 3 期会に参加し、話がつきません。今年も、草津一泊旅行の計画で、皆また元気に参加しようとしています。



(徳田安正 記)

(西高6回生)

6 回生の活動は、1975 年関東六西会として発足、途中休止期間があるも既に 29 年も続いています。

最盛時には暑気払い・忘年会・一泊旅行など活動も盛んで、40 名程の参加者がありました。しかし、古希が過ぎ参加者が 20 名強に減つてきたこともあり、幹事役の持ち回りを止め、熱心で理解がある男性に永久幹事をお願いし、有志数名で支援していくことになりました。

又行事も当座年末に忘年会を兼ねた総会を開くこととし、必要があれば幹事の発案により有志で決めることにしました。

(東郷豊 記)

(西高9回生)

昭和 34 年の卒業で、この年は皇太子殿下のご成婚、北海道知事に町村金吾氏が当選。函館にいる人達の努力により、「函館弁でしゃべる会」として毎年定期的な集まりが続いています。

古希を控えた昨年 10 月には卒業 50 周年とかで、関東や札幌近辺からも加わった 80 名程で昼は観光・ゴルフ・パークゴルフを楽しみ、夜は五島軒で北の味とおしゃべりの後、二次会はバスをチャーターして大門と五稜郭を回り、夜の函館を楽しみました。

熱心な幹事さん達のお陰で名簿

も揃い、伊豆旅行や札幌定山溪旅行会も開催しました。

関東でも年 1 回春に一泊旅行を 15 年ほど続けており、札幌でも定期的に開かれています。小学区制のせいか近所付き合いや、幼稚園も一緒なんて人達もおお、夫婦での参加も何組かあります。

毎年少しづつ欠けてはおりますが、今後も臥牛の山と港を眺めた共通の思いを函館弁で語ることが続くのでしよう。

(徳田紀美子 記)

(西高10回生)

10 回生は昨年 10 月に函館に於いて卒業 50 周年を記念して同期会(35 年卒業、珊瑚会)が開催され、100 名が集まりました。関東からも大勢出席し、その様子は道新の「われら同窓」にも掲載されました。東京支部では、年 2 回、場所を有楽町の「ニユートーキョー」に定めて集まっています。

最近では、同窓会東京支部の HP を見て初めて総会に出席し、それを契機に同期会にも参加するようになった昔の仲間が 3 人います。今年 1 回目は、2 月 5 日に開催、1 月に逝去された宇喜多先生に全員で黙とうを捧げました。同期生のほとんどが仕事から離れたので、2 回目の 11 月には同期の輪をさらに広げたいと思っています。

(福井達郎 記)

(西高11回生)

我々 11 回生は昭和 36 年卒業である事と函館山山麓で学んだ事に因んで函館西高校「山麓会」と名付け、隔年(西暦の偶数年、つゝじヶ丘同窓会東京支部と重ならない様に活動しております。

参加者は関東在住者を主とし東北から関西(大阪・京都)方面迄呼びかけ毎回 40 余名の参加を得ております。(函館からの参加者もある)開催場所は参加者の便宜を図る為此 10 数年ニユートーキョー数寄屋橋本店に決めております。

本年は平成 22 年 11 月 27 日(土)開催に向け、同期生一同元気な姿でお会い出来るのを楽しみに幹事一同準備を進めてまいります。

(若林英毅 記)

(西高13回生)

13 回生は、65 才を迎え、宴会・カラオケが激減、「健康活動に変身中」です。

① 6 月高尾山登山に挑戦、脚力のばらつきが大きいですが人気抜群。(16 名参加)

② 9 月浅草公会堂益田喜頓生誕 100 周年記念ミュージカル鑑賞。(15 名参加)

③ 8 月札幌ビール千葉工場見学。道南会暑気払い行事に参加。(18 名参加)

④ 12 月都文化財旧学習院寮「目白クラブ」にて忘年会。(24 名参加)

・昨年 1 月常連の小幡芳弘さん急逝。心よりご冥福をお祈りします。
 ・支部事務局にて 4 名のメンバー活躍中です。
 ・本年度は 1 月の新年会時に年間行事を公募しました。

(小玉正義 記)

~~~~~  
**(西高 14 回生)**

5 月末に旅行会を実施しました。北海道から 8 名の参加を得、総勢 22 名。福島市内での昼食に始まり、穴原温泉で宴会、自家用車参加の 5 名の車で裏磐梯ドライブ、会津若松を見て郡山で同期生が経営する居酒屋で夕食と盛り沢山なメニューで、全員飲み疲れ、食べ疲れ、話し疲れ、笑い疲れの 2 日間でした。

なお、同窓会東京支部ホームページに詳しい顛末を載せてあります。  
 (佐々木太郎 記)

~~~~~  
(西高 17 回生)

私たち 17 回生の活動は、それほどものでは有りませんが、基本的に東京支部同窓会(総会)のある年は、総会後に同期会を続けて開催しております。しかし、2 年ごとの開催では間隔が開き、毎年の開催ができないかとのことで、毎年開催する様になりました。

しかし、昨年の総会后、今年は秋にも集まるうということになり、10 月に開催しました。これからもこの

スタンスを予定しております。しかし、以前から函館の同期会への出席や、個別の集まりには行き来が頻繁になってきております。

今年は例年開催の函館同期会有志の花見が仙台での開催となり、地元仙台在住者と東京在住者も加わり盛り上がりました。

東京同期会は、秋に開催を予定しております。

以前は介護とか病気のため出席出来なかつた人たちも還暦を過ぎ、少し肩の力を抜いて参加されることを願っております。事務局へご連絡頂ければ幸いです。

(竹澤秀明 記)

~~~~~  
**(西高 19 回生)**

我々 19 期生の多くが本年度の干支である、寅年がほとんどで、私も当然のごとく五黄の寅なのです。

活動状況ですが、関東近辺に 100 人弱の同期生が住居しており、年に 1 回、『19 期東京会』と称し、同期会を開催しており、昨年 11 月で 21 回目を迎えました。100 名近くに毎年往復葉書で参加をお願いし呼びかけていますが、実際に集まるのは最大で 36 名で年度により入れ替わりはありますが 20 名前後となっております。

会場、料理は東京メトロの系列会社に勤務している同期がいて、毎回安価で提供してもらっています。その他、幹事会(5、6、10 名)を年

3、4 回程度、任意に設定し集っています。

今年、ほとんどが 5 回目の干支、函館と同調し、2 年前に行われる予定だった卒業 40 周年同期会を見送り、『赤いちゃんちゃんこを着る会(仮称)』を 10 月、11 月ごろに一泊二日で行う予定しております。

(藤谷敏雄 記)

~~~~~  
(西高 20 回生)

「集まれ！仲間」から「集まる仲間」へ

総会実行幹事(第 12 回同窓会)の役目を終えて、すでに 3 年が過ぎましたが、当時の 20 回生は 54、5 歳で社会人、家庭人としての生活環境変化を受けている人が多く、個々に余裕の時間を持てる人が少ない中、同窓会開催に協力していただく仲間を集めるには、とても苦労しましたが、その中でも数人の同期が集まり必死で開催準備をして全てが終わったときの安堵感はお互い口には出さなかつたけれどしっかりと心の中で「有り難う」「ご苦労さん」「無事に終了了」・・・といろいろな言葉が飛び交っていたように思えました。

今考えても、あの時に奇跡的に集まったメンバー 9 名が、それこそ一人でも居なかつたら役割を果たせなかつたのではと思うほどです。現在はあの時に集まったメンバー 3 名が中心になってキマグレに年に

数回、高校生気分分で集まれる仲間となつております。

来年は、20 回生も還暦となります。そのため、卒業後 5 年に 1 度開催の同期会を 1 年遅らせ還暦に合わせ来年は、大々的に函館で 20 回生(昭和 45 年卒)の同期会(西高 20 会・にしこうはたちかい)が開催される予定ですので、関東在住の 20 回生の皆様は是非還暦記念の同期会に来年は「いざ函館へ」で参加して戴きたいと思っております。

余談ですが、前々号で紹介した工藤瞬二君情報を一つ「瞬慶」として音楽配信サイト MUSIC TREE より 3 曲(1 曲 100 円)が配信されていますので聞いてみてください。

(高村亨 記)

結婚式、パーティーの 2 次会は…
ライブスナック
チャップリン
<http://www.chap-lin.com/>

生演奏 イベント、パーティー、ウエディング etc.
 企画・制作 各種イベント、各種パーティー etc.
 派遣 ミュージシャン、スタッフ

工藤瞬二 (西高 20 回生)
 函館市本町 26 番 18 号第 2 名美ビル 2F TEL.0138-56-4457
 函館市本町 1 丁目 23 番 47 号 TEL. & FAX.0138-55-5585



第13回 総会・懇親会出席者名簿

※(数字)は、卒業回・敬称略

(高女) (30)佐藤マサ、(31)佐々木静子、(32)照井陽子、(33)石畑きね子、(34)石垣涼子、(36)渡辺知子、大道寺洋子、本多知子、江口和子、川村ひさ子、(37)鳥本玲子、染木トシ、(38)小西弥生、(40)大塚洋子、橋本容子、(41)野村幹子、(女子高) (2)中川亮子、中村トク子、成田慶子、相馬佳代、高木清子、金丸美佐子

(西高) (1)新谷義克、(2)賀川勢津子、若林岑生、桜井正光、野田周三、安田千恵子、伊藤欣子、上田園子、(3)橋本力、山村勉、長澤清司、永井信明、後藤栄子、布川セン子、徳田安正、高橋幸夫、中野陽子、(4)阿部英一、富田正敏、宮崎繁、太刀川正、木寺章、郷内繁、齋藤隆平、(5)町田茂子、関谷幸子、八木浩子、相馬滋、長澤慎二、(6)笠川雅彦、平河節子、東郷豊、池田昌江、小笠寺直巳、滝沢輝明、(7)土井功、青柳将之、木村輝子、(8)山田幸平、竹中裕行、山田隆治、(9)大谷長弘、新田綾子、本田啓、徳田紀美子、勝木康隆、中村紀之、森英爾、北川佳子、佐々木理夫、(10)陳和子、藤原ユキ子、加野治、加野幸子、福井達郎、高見康夫、小嶋俊昭、川村英夫、浜田光男、赤塚雅弘、丹羽早智子、

桜川薫子、徳永豊吉、松本信男、福井紘一郎、竹岡亮三、(11)齋藤宏、岩尾紘一、植木清明、若林英毅、長谷川大剛、石橋洋嗣、(12)小川正典、月永充、村井邦子、服部直道、小河大三郎、(13)木谷勝子、長津俊、堀口六壽、奥村浩之、佐藤英佐子、三村寿雄、広田悦子、岡部幸昭、小玉正義、坂本幹男、齊藤勝美、森越勝、白石一恵、花木瞳、(14)天野美秋、佐々木太郎、堀内洋子、加藤秀勝、高橋悦子、坂本喜久子、常田登志子、津澤和範、道下邦雄、田端冴子、小坂俊昭、依田征子、釜范勝宏、細見紀子、辰村新平、(15)黒河道夫、木村隆夫、渡辺明美、宮越憲市、酒田幸男、(16)新出邦彦、豊田嘉宏、加納侑一、長島襄、夏井秀夫、井村秀子、猪しまこ、峰瞳、川野三郎、平野眞理子、本間浩司、村元隆子、吉村摩耶、伊久京子、河津慶子、北村文夫、滝口清、千葉浩、星野恵美子、長屋恵子、若松築子、久木田直、熊沢智、久保木一郎、本間憲子、竹内一郎、石垣恵子、坂口清隆、対馬和子、渡辺元、八重島智子、吉元美子、宇佐美孝子、大石佐保子、(17)後藤優子、大西裕子、山崎雅司、齋藤光子、榎房子、櫻田俊行、大瀧敏子、佐藤満寿衛、川端莊平、工藤純一、若山央、浦袖進、高橋順吉、竹澤秀明、松田周二、鴻池佳衣子、岩片文子、(18)折田信一、浜勝信、中川隆、鈴木由子、藤原千津子、金子昭廣、佐藤雅英、藤井正昭、佐々木佳子、馬場政平、竹田光男、黒澤潤一、西田吉克、三浦正樹、安原秀樹、伊藤愛子、従二元久、関口精治、岩瀬友子、水上幸江、河野真利子、(19)加藤文比古、金谷守康、山田義和、川瀬俊吉、原島邦子、栗原陽子、井上善子、中居洋子、藤谷敏雄、澤出隆、(20)加藤理知子、財津和子、高村亨、松田陽一、真鍋宗孝、平岡みゆき、(22)根本修、(23)西山和子、河野隆子、(24)姥久手悦子、小林多美、野口孝子、中野恵子、近藤志津子、京極信良、岸本祐逸、福田康典、(27)新谷一宏、野口卓史、大熊信子、(31)中川嘉久則、(55)前田いおり

【平成21年度 つゝじヶ丘同窓会東京支部 会計報告】

平成21年12月31日

Table with 4 columns: Section (Income/Expense), Item, Amount, and Sub-section. It details financial transactions for the association, including membership fees, administrative costs, and interest.

【繰越金内訳】

Summary table for carry-over funds, showing bank balance (1,992,284円) and cash (92,051円) totaling 2,084,335円.

以上会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

平成22年4月2日

会計監査 13回生 森 加代子

※未払金は総会関連費の内、予算オーバーした分が、支払いが残っている分であります。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

夜八時 迷ってしまう 大門通り (字余り)
二時間に 二年の思い 語り合い (亨)
出る度に 聞かされ歌い 校歌知る (亨)

川柳

会員投稿コーナー

函館の歴史

函館検定公式テキストブックから

第 1 章「歴史」

— 高田屋嘉兵衛の活躍 —

高田屋嘉兵衛の活躍は、函館市民であればよく耳にします。彼の活躍が江戸幕府の蝦夷地直轄と箱館の発展とどのように関係しているのでしょうか。

高田屋嘉兵衛は、1769 年淡路国で百姓の長男として生まれ 1790 年兵庫港に出て船稼ぎをしていました。

その後、沖船頭となり弟 3 人とともに回漕に従事し 1796 年には辰悦丸を新造して船主となり箱館港に入港したのが、嘉兵衛が箱館に来た最初でした。嘉兵衛は箱館の小宿(問屋の補助)白鳥勝右衛門方の世話で積荷を売りさばき、蝦夷地の産物を交易して 1798 年には弟金兵衛を支配人として箱館の大町に支店を設け、所有船も 5 艘として兵庫、大阪、下関と箱館を往復しました。1799 年、箱館は幕府直轄地となり松前藩の亀田番所は 1802 年箱館奉行所となりました。箱館が何故発展したのか、それは幕府による東蝦夷地の直轄と国後、択捉を含む東蝦夷地全域の産物が直接

箱館に集荷されるようになった結果です。高田屋嘉兵衛による択捉漁場の開発もこうした状況下で幕府の命令によって行われました。1800 年、嘉兵衛は択捉島へ渡り 17ヶ所の漁場を開き、幕府の命により官船 5 隻を大阪にて建造し、翌 1801 年 4 月箱館に回漕し千島方面の運行に当たり、その後、蝦夷地定雇船頭を命じられました。これにより、以後官船並びに官雇船まで一手に管理差配し箱館と兵庫を根拠地として縦横に活躍したのです。

高田屋嘉兵衛の活躍といえどもう一つ、ゴロヴニン事件があります。1804 年ロシア使節レザノフは北太平洋植民地への食料補給のため、日本との通商を要求し長崎に航しましたが幕府はそれを拒絶しました。彼は失望し 1806 年 1807 年、雇用していた軍人フヴォストフに樺太、択捉などを襲撃させ鎖国の意向を挫こうとしたのです。(間もなくレザノフ自身はこの襲撃命令を撤回し死亡)。1807 年、幕府は西蝦夷地も直轄、危機感を募らせ南部、津軽両藩兵の増派、秋田、庄内両藩にも臨時出兵を命じました。そのような日露の緊張下でゴロヴニン事件は発生しました。

1811 年 5 月 4 日、千島測量中のロシア船ディアナ号艦長ゴロヴニン海軍少佐ら 8 名が国後島に上陸したところ泊の会所で幕府役人に捕縛される事件がおきました。ゴロヴニンらは根室に移され、更に 7

月箱館に護送され拘禁、8 月には松前に移され拘禁されました。

たまたま高田屋嘉兵衛が、所有船観世丸に産物を積んで択捉から箱館に向かう途中の 8 月 14 日早朝、ケラムイ岬沖でリコルド副艦長率いるディアナ号に見えられロシア側に拿捕されてしまいました。随行希望の 5 人とともにカムチャツカに連行され嘉兵衛は翌年春までリコルドと同じ部屋に起居をともにした事により、リコルドは嘉兵衛の率直さと正直な態度に彼を信頼するようになって行きました。1813

年 5 月、リコルドは嘉兵衛らを連れて国後へ向かい、国後で幕府とロシア側の交渉を開始します。嘉兵衛はリコルドに自分が幕府と話をしなければ交渉は進まないと言げ、人質としてではなく調停役として働き、その結果、改めてロシア長官の謝罪公文書があればゴロヴニンが釈放されるとい確証を得たリコルドは公文書を手するため 7 月いつたん帰国、9 月に箱館で嘉兵衛と再会しました。嘉兵衛はこの時、松前奉行の名代として交渉に当たりリコルドが持参したイルクーツク民政長官の文書の内容(フヴォストフの襲撃はロシア政府の意向によるものではない事)により、ゴロヴニンは 2 年 3 ヶ月ぶりに釈放され、事件は解決したのです。

ちなみに、函館市宝来町の護国神社坂登り口にある高田屋嘉兵衛像は、この時交渉に臨む姿をイメージ

して造られていて右手には松前奉行からの論書、左手には艦内で正装に着替えた際に脱いだ衣類をかかえています。

ゴロヴニン事件解決から 5 年後の 1818 年、50 歳を迎えた嘉兵衛は健康が優れず 22 年間の大きな足跡を残し郷里の淡路島に帰り、その後再び箱館に来ることはありませんでした。

郷里に戻り 9 年後の 1827 年、悪腫瘍のため 59 歳で亡くなりました。

嘉兵衛は、箱館奉行に協力し、箱館港を埋め立てた造船所の開設、1806 年大火後の掘り抜き井戸の設置、箱館山の植林、大野村(現北斗市)への道路の改修、戸切地村(現北斗市)の開墾までやり遂げ函館とその周辺の社会事業に大きく貢献したといえるでしょう。

木谷勝子 記(13 回生)



メルマガ会員登録のご案内

函館西高つゞじヶ丘同窓会東京支部では、メルマガ会員を募集しています。

メルマガ会員の皆様には、「会員だより」や「事務局トピックス」などの最新情報をタイムリーにお送する予定です。

メルマガ登録方法

- 1. パソコンから登録の場合メールアドレス (regist@td-tokyo.com) へ空メールを送信する。
- 2. 携帯電話から登録の場合左記のQRコードを読み取り、空メールを送信する。

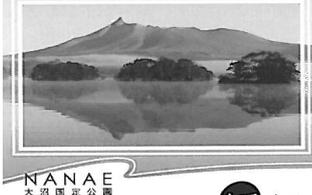


QRコードには、次の内容が記録されています。

「(regist@td-tokyo.com) 西高同窓会東京支部メルマガ登録用メールアドレス」

大沼観光大使第一号の任命のご案内

西高19回生の川瀬俊吉氏が名誉ある大沼観光大使第一号に任命されましたので会員の皆様にご紹介させていただきます。皆様よりしく願っています。



大沼観光大使 第一号
東京大沼会代表世話人
川瀬 俊吉
〒343-0852 埼玉県越谷市新川町1-440-2
TEL/FAX 048-987-9354
携 帯 090-3091-1957
大沼観光協会ホームページアドレス
<http://www.onuma-guide.com/>
T E L 0138-67-3020

☆☆☆☆☆☆☆☆

つゞじヶ丘同窓会東京支部 役員・事務局員の紹介

※(数字)は、西高卒業

〔役員〕

- (会 長) 新谷義克(1)
- (副会長) 小西弥生(高女38)
- (会 計) 堀内繁(4)
- (会計監査) 堀内洋子(14)
- 森加代子(13)

〔事務局〕

- (事務局長) 高橋順吉(17)
- (局 員)
- 斉藤勝美(13)、三村寿雄(13)、
- 木谷勝子(13)、長津俊(13)、
- 佐々木太郎(14)、若林郁雄(14)

- 竹沢秀明(17)、佐藤雅英(18)
- 川瀬俊吉(19)、高村亨(20)
- 羽川和男(22)、西山和子(23)
- 小林多美(24)、野口孝子(24)
- 中野恵子(24)

☆☆☆☆☆☆☆☆

同窓会年会費納入のお願い

―ナナメの関係が大切である！―

「人間は『親と子』『教師と生徒』といったタテの関係、友人同士のよいうなヨコの関係以外に、異世代間の『ナナメの関係』が大切である。人間の人生って『ナナメの関係』がどれほど豊かであるかによってかなりの部分が決まる」(元杉並区立和田中学校長 藤原和博氏)

異業種交流とも違う「我が故郷北の大地・函館、西高」この一点で結ばれた同窓会の「絆」は、大変に貴重です。年月を重ねる程に存在感が増してきます。クラス会・同期会はいずれ消滅してしましますが、同窓会は後継者にバトンをつなげば、永久です。永続性を持つために、会の維持のために、後輩のために、皆様からの積極的な支援(年会費)のご協力を切にお願いいたします。

年会費の納入には、同送の振替用紙をご利用頂くと大変便利です。☆☆☆☆☆☆☆☆

会員の皆様へお願い

○会員の投稿コーナーを設けました。短歌、俳句、川柳、詩、漫画等何でも結構です。投稿された方には、会報第4号で紹介致しました、20回生工藤瞬二さんの作品を収録したCD「函館物語」を進呈いたします。

次号の原稿締切りは、平成23年3月末日です。奮ってご投稿をお願いいたします。

○事務局では、事務局活動にご協力いただける会員を募集しております。ご協力いただける会員は事務局にご連絡をお願いいたします。

事務局の電話番号・FAX番号・メールアドレスは、1ページの題字の下部に掲載しております。

☆☆☆☆☆☆☆☆

編集後記

○事務局に会報担当が設けられ始めての発行です。

会報部会は、昨年10月始め第一回目の会合を開いてから皆さんお忙しい中、時間を割いて月1度の打合せを行い、7回の会合を行いました。事務局の皆様のご協力により何とか発行にこぎつけました。ご投稿いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。(木谷)

○本年は、事務局の不手際で、本号の発行が予定より遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

(事務局長 高橋順吉)